

接種期間は、10月～12月までです。

ることもあります。通常2～3日のうちに治ります。また、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れるなどの報告があります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。



5. 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人。一般的に、体温が37.5℃を超える場合
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなる人
- ③ インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある人（アナフィラキシーというのは、通常接種後約30分以内におこるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるようなはげしい全身反応のことです。）
- ④ 前にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹、じんましんなど全身性発疹等のアレルギーを疑う異常がみられた人
- ⑤ その他、医師が不適當な状態と判断した場合

6. 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液疾患、その他慢性の病気がある、または治療を受けている人
- ② 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ③ 今までに免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- ④ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する人
- ⑤ インフルエンザ予防接種の成分または鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人

7. 予防接種を受けた後の注意

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- ② インフルエンザワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤ 予防接種済証を健康手帳、おくすり手帳等に貼り大切に保管しましょう。（健康手帳は、延岡市健康増進課でお渡しします。）

8. 副反応が起こったとき

予防接種の後まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどくはれたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、すみやかに医師（医療機関）の診察を受け、延岡市健康増進課へ連絡してください。その他、不明な点は下記へお問い合わせください。

【お問合せ】

延岡市健康増進課

電話 22-7014

接種期間は、10月～12月までです。

高齢者インフルエンザ定期予防接種（説明書）



対象者

接種日に延岡市に住所を有し、住民基本台帳に登録されている人で、次に該当する人

- (1) 65歳以上の人
- (2) 60歳以上65歳未満の人で、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能または、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障がい
を有し、日常生活に支障のある人

※ この予防接種を受ける法律上の義務はありませんので、「接種を希望している」という本人の意思の確認ができない場合は、対象者になりません。なお、対象者以外の方は、任意接種となりますので医療機関にご相談ください。

回数 1回

料金 1,500円。医療機関窓口でお支払いください。

ただし、生活保護受給世帯の人は、無料。（生活福祉課発行の保護証明書が必要です）

1. 予防接種を受ける前に

- ・インフルエンザ予防接種について、この説明書をよくお読みください。
- ・気になることや分からないことがあれば、事前に医師や看護師、もしくは延岡市健康増進課にお尋ねください。
- ・予診票は、医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任をもって正しく記入してください。

※問診項目6段目「薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことがありますか」について、特にインフルエンザ予防接種の成分または鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人は医師とよく相談して下さい。

2. インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。主な症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。かぜに比べて全身症状が強く現れます。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。流行時期には、小児から高齢者まで膨大な数の人を巻き込むという点でも普通のかぜと違います。

3. インフルエンザ予防接種の有効性

予防の基本は、流行前に予防接種を受けることです。高齢者の発病防止や重症化防止に有効であることが確認されています。予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかりその効果が十分に持続する期間は約5ヶ月間とされています。より効率的に有効性を高めるためには、毎年インフルエンザが流行する前の12月上旬までに接種を受けておくことが必要です。

4. インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。また、わずかに熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられ

●裏もお読み下さい。